

医療保険療養病床における入院3ヶ月後の医療区分の変化について

[調査対象] 日本慢性期医療協会会員のうち医療保険療養病床をもつ153病院

[対象期間] 平成20年10月から平成21年3月

[対象患者] 医療保険療養病床に3ヶ月以上入院した患者1732名

[調査主体] 日本慢性期医療協会医療保険委員会

[結果の概要]

1. 回答153病院のうち、3ヶ月の入院期間中、医療区分にほとんど変化のみられなかった病院および軽快・悪化が同数の病院を「横ばい」とすると、32病院(22.5%)が「横ばい」であった。

軽快患者が悪化患者よりも多い「軽快」が53病院(37.3%)、逆に悪化患者が軽快患者よりも多い「悪化」が57病院(40.1%)であった。

2. 軽快または悪化した患者のいる病院で「軽快率」を見た場合、50%超が軽快患者の方が多い病院、50%が横ばいの病院、50%未満が悪化患者の方が多い病院となる。

本調査結果からは、91%以上の「軽快」が23病院(18.5%)、10%未満の「悪化」が同じく23病院(18.5%)となっており、両極に分布が見られる。

《軽快率＝軽快患者数÷(軽快患者数＋悪化患者数)》

3. 153病院の平均軽快率は49.8%であり、軽快患者数と悪化患者数はほぼ同数であった。

4. 3ヶ月間での医療区分の変化は軽快した患者で平均-0.7、悪化した患者で平均+0.6であった。